

土方久功 彫刻家、詩人、民俗學者。明治二十二年七月十二日東京小石川林町生れ、昭和五十二年一月十一日没（九〇一七）。大正十二年東京美術學校彫塑科卒。同窓の國鹿之助、小泉清、山本立人等がおりた。十五年川路柳虹主宰詩誌『炬火』創刊同人。昭和二年丸善畫廊で彫刻個展。四年南洋パテオ島へ渡航、六年ヤツパ離島サテワヌ島に入り、爾後七年間滞在し彫刻及び島民主俗を研究。十四年パテオ島戻り、丸山既設、中島敦の訪問を受く。十七年敦と共に歸國。次ぐポルネオ調査團民族班を擔當、北ポルネオに渡る。翌年ポルネオ博物館、同圖書館長、十九年病を獲て歸國。二十六、二十八年丸善畫廊で彫刻個展。四十九年季刊詩誌『草涼』同人となり、毎號詩、隨筆を發表。著書に『ロヤツパ離島サテワヌ島の神と神事』（昭和十五年十月五日南洋群島文化協會）、『パテオの神話傳説』（昭和十七年十一月五日大和書房）、『流木』（昭和十八年五月、二十日小山書店、復刊『流木—ミクロネシアの狼身』）四十九年八月五日木栄社）、『文化の果の果』（昭和二十八年九月五日龍屋閣「限定版叢書」）、『衆詩集ポロ』（昭和二十九年八月、二十日大和書房）等の他、繪本數點出版。また雑誌『同時代』第三四号（昭和五十四年八月十日重刊の会）は入特集。



土方久功。

